

各関係機関団体の長 殿
各病害虫防除員 殿

福岡県病害虫防除所長

平成 24 年度病害虫発生予察注意報第 2 号について

注意報 第 2 号

このことについて、病害虫発生予察注意報第 2 号（麦類赤かび病）を発表したので送付します。
麦類の開花期に降雨があり、また気温も発病適温であるので、赤かび病が多発生するおそれがあります。小麦では 1 回防除だけでなく、2 回目の防除の徹底をご指導願います。

麦 類

- 1 対象作物 小麦、二条大麦
- 2 病害虫名 赤かび病
- 3 発生地域 県下全域
- 4 発生時期 並
- 5 発生量 多
- 6 注意報の根拠

- (1) 福岡管区気象台の週間天気予報（4月26日発表）によると、向こう1週間の降水確率は27日（金）が0%、28日（土）～5月2日（水）の期間は20～40%、降水量の合計は平年並の14～35mmとされている。また、27日（金）～5月2日（水）までの最高気温は23～26℃と予想されており、本病原菌の感染・増殖に好適な温度条件が続くと予想される（防除の手引き）。
- (2) 本年における麦類の防除適期は、小麦では1回目が4月18日～24日頃、2回目が4月25日～5月4日頃、大麦では4月26～30日頃と予想されている（第1表）。
- (3) 赤かび病多発生年は、麦の出穂期以降の平均気温が18～20℃を超え、湿度が80%以上の日が3日以上続く場合、降雨または濃霧頻度が高い（日照時間が少ない）場合とされている（「発生予察事業の調査実施基準」）。
- (4) なお、福岡管区気象台の1か月予報（4月20日発表）によると、向こう1か月の降水量は平年より多い確率50%で、気温は4月21～27日は、平年より高い確率70%、4月28日～5月4日は平年並または高い確率がいずれも40%、低い確率は20%とされている。

7 防除上注意すべき事項

- (1) 小麦の1回目の防除適期は開花期（出穂期後7～10日頃）であったが、その後も発病好適条件が続くと予想されるので、2回目の防除を1回目の防除の7～10日後に実施する。
- (2) 二条大麦の防除適期は、穂揃期の約10日後（出穂期後12～14日、蒴殻が抽出し始める頃）で（第1表）、防除時期が間近となっているため、時期を失しないよう防除を徹底する。なお、大麦では収穫までの日数が短いので、薬剤の選定に当たっては、収穫前規制に注意する。
- (3) 降雨の合間に薬剤防除を行う場合、液剤は散布後一旦乾けば降雨があっても薬剤の効果はある。しかし、粉剤の場合は、散布後6時間以内に降雨があった場合は薬剤の効果は低下するので、降雨情報に注意する。なお、薬剤散布後に降雨があり、再度散布すると散布回数は2回とカウントされるため注意する。
- (4) 防除に当たっては、農薬使用基準（使用時期、使用回数等）を遵守する。特に、小麦、大麦で農薬使用基準が異なる薬剤が多いので注意する。また、周辺圃場への飛散防止対策を講ずる。

第1表 農業総合試験場における麦類の出穂期および防除適期

麦種	品種名	播種期	出穂期	同左 平年差	同左 前年差	調査地	1回目の 防除適 期	2回目の 防除適期
小麦	シロガネコムギ	11/18	4/11	+3	±0	大木町	4/18～ 4/21	1回目の 防除の 7～10日後
	チクゴイズミ	11/17	4/14	+3	-3	筑紫野市	4/21～ 4/24	
	ちくしW2号	11/18	4/11	+4	-3	大木町	4/18～ 4/21	
		11/17	4/12	±0	-4	筑紫野市	4/19～ 4/22	
大麦	ほうしゅん	11/25	4/14	+4	-1	筑紫野市	4/26～4/28	
	しゅんれい	11/25	4/16	+2	±0	筑紫野市	4/28～4/30	
	はるしずく	11/25	4/7	-1	-7	大木町	4/19～4/21	

注1) 平年値はH12～H22年播の平均値。

注2) 1回目の防除適期は、米麦大豆改善速報第1号の出穂期確定値に合わせて書き直しているため、病虫害発生予察速報第1号の値とは異なる。

8 その他

麦類の検査規格では、食用麦の赤かび病被害粒の混入限度は0.0%である（赤かび病被害粒が0.05%以上混入しているものは規格外となる）。また、小麦穀粒に含まれるかび毒（DON）の暫定基準値は1.1ppmで、この値を超える小麦は流通できない。